

東大野球部 メールマガジン Vol.238

ごあいさつ

木々の新緑が春光に映える季節になりました。新型コロナウイルスによってお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、罹患された皆様に心よりお見舞い申し上げます。1日でも早く流行が終息の方向に向かうことを願っております。

弊部は新型コロナウイルスの影響で活動を停止しております。先行き不透明な中ではございますが、部員一同精進してまいります。

今後とも東大野球部をどうぞよろしくお願いたします。

今後の日程

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面の間活動を停止しております。

また春季リーグ戦は、5月下旬に開幕を延期し1試合総当たり方式での開催に向け準備することとなりました。

今回の特集

『『野球』とは』

今回の特集は、『『野球』とは』です。部員に自分にとっての『野球』とは何かについて語っていただきました。

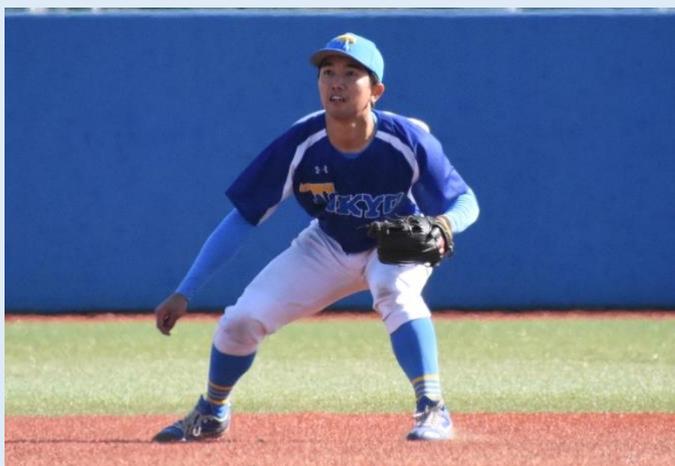
奥野 雄介 (3年・投手・開成)

自分にとって野球とは「生涯付き合っていくもの」です。競技としての野球をやめても、草野球やプロ野球の観戦など何らかの形で野球とは死ぬまで関わり続けていこうと思います。そのくらい自分にとって野球は欠かせないものです。そのため新型コロナウイルスの影響で満足に野球ができない現状は、なかなか大変なものがあります。今できることをこなしつつ、一刻も早くグラウンドに戻り野球ができるようになることを祈っています。



植村 友貴 (3年・内野手・灘)

文章を書けと言われるとボケたくなるのが関西人の性ですが、自粛ムードで人と話さない間に刀が錆びてきているのと、大変ボケしづらいお題であるため今回はお休みさせていただきます。さて、大切なものは失って初めて気付く的な言い回しがありますが、外に出られない今、自分は野球が好きだと再確認しております。辛いことも多く、投げ出したくなることもあります。上手になって野球をより楽しめるよう、日々精進してまいります。



辻村 和樹 (3年・内野手・県立千葉)

小さい頃夢中になって始めた野球もこれまでにたくさんの価値観に塗り替えられ、野球の見方も変わってきたように思います。果たして、今考えている野球とは当初の私にとっての野球と同じものと言えるのだろうか。そんなパラドックスも考えてしまう今日この頃です。でも、純粋にチームメイトと全力で野球ができることの楽しさにも気付かされた気がします。平穏な生活に戻ったときには、そんなことを感じながら練習に励みたいと思います。



井上 遼太郎 (2年・外野手・筑波大駒場)

野球は、僕にとってあらゆる努力の原動力でした。勉強を頑張れたのも他人より時間がないから、野球のせいにしたくないからと考えられたからかもしれない。そう考えると、野球は今の自分を形作

ってくれたものだと言えます。しかし、結果が出ないと努力をしたとは言い切れません。これからも出来る限りのことをして、良い結果を出し、チームの勝利に貢献したいと思います。



片岡 朋也 (2年・内野手・麻布)

野球は僕にとって、すてきな乙女です。チームの団結、多彩なプレー、目まぐるしい場面展開、どれをとっても魅力的です。そんな乙女に僕は恋をしました。が、まだまだ一方的な恋なのが悲しいところです。おまけに今はコロナ禍真っ只中で、なかなか距離も縮まりません。しかし、焦りは禁物と言います。大好きな野球に振り向いてもらえるように、先を行く恋敵たちとの差を一步でも埋められるように、今できることをやっていきます。



編集後記

今回の特集はいかがでしたでしょうか。

次回は「困難を乗り越える術」と題して、様々な困難に直面する時、どのように克服しているかを紹介してもらいます。どうぞお楽しみに！

今後とも東大野球部をよろしく願いいたします。

お問い合わせ先

〒113-0023

東京都文京区向丘 1-5-9 一誠寮

Tel&Fax 03-3811-5100

メールアドレス office@tokyo-bbc.net

メルマガについてのご意見、配信停止のご希望等ございましたら上記連絡先までご連絡ください。